

東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター～VOL. 36～

平成31年1月発行

【発行】

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ
岩手県盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7042 FAX:019-637-7592

沿岸部の生活支援相談員リーダーが集まり情報交換

平成30年12月21日（金）、陸前高田市コミュニティホールで、第2回生活支援相談員リーダー等情報交換会を開催し、沿岸部の生活支援相談員等22名が参加しました。

午前には本会から、『今後の被災者支援のあり方』として、次のような講話を行いました。

- ▶ 生活支援相談員は、被災者支援としてとても重要な仕組みで平常時においても有効。国の復興・創生期間が終了する平成33年以降に、例えばCSW（地域福祉活動コーディネーター）として発展することを目指したい。
- ▶ 支援対象者は、徐々に減少が見込まれるが、世帯が抱える課題は複合化している。生活支援相談員だけでなく、行政、医療施設、一般企業、地域の商店、隣近所などを含めた地域連携の中で支えていく必要がある。
- ▶ 社会との関わりを持たず孤立した住民をつくらないためにも、福祉コミュニティづくりを図らなければならないが、自然に形成されるものではない。住民が、「私たちも何かやろう」と必要性を感じて動き出す主体形成と、住民同士の助け合い、共同で行う取組への支援が生活支援相談員に求められている。



参加者からは、「今後の方向性がイメージできた」、「いろいろな機関と連携を深めて、住民が安心できる暮らしにつなげたい」、「今までの生活支援相談員の活動を改めて振り返ることができてよかった」等の感想がありました。

昼食交流会を挟み、午後は、本会から『アセスメントの集計結果』について説明した後、グループごとに悩んでいることや課題について、情報交換を行いました。

主な話題は、「住民主体のサロンについて」や「転居先でのコミュニティづくり（支援）」で、日頃の訪問活動やサロンの様子から、たくさんの考えやアイデアが出されました。

- コミュニティづくりはきっかけづくり。「〇〇さんに持って行ってちょうだい」と頼み、住民同士が関わるきっかけをつくっている。
- 大事なのは支援者目線ではなく住民目線で考えること。「自分だったら」と置き換える。
- サロンで住民と話しているうちに「マップ作りをしてみよう」となることもある。

参加者からは、「自分の課題に対する解決のノウハウをもらった」、「住民の強みを探しながら支援していこうと思った」等の声があり、新たな気づきを得たり、思いを共有する場にもなりました。

被災者生活支援事業推進会議 及び 生活支援相談員等統括者研修 開催

平成 31 年 1 月 22 日（火）～23 日（水）、つなぎ温泉ホテル大観で東日本大震災被災者生活支援事業推進会議及び生活支援相談員等統括者研修を開催し、市町村社会福祉協議会の事務局長、担当課長、生活支援相談員統括担当等 43 名が参加しました。

会議では、復興庁岩手復興局、県地域福祉課及び本会が被災者支援の施策動向を説明しました。

研修では、神奈川県立保健福祉大学名誉教授の山崎美貴子氏、淑徳大学総合福祉学部准教授の山下興一郎氏を講師に、支援の収束期に統括者として取り組むべきこと、社協として先を見据えた新たな支援展開や運営上の課題等について学びました。



☆講義のポイント☆

- ・ 地域には様々な活動の担い手がいる。個の支援と地域支援との一体化を進める人材の育成を。
- ・ 点（個別対応）を面で支える援助と、点を支える面（地域資源）を創る支援の融合を。
- ・ 地域で支援を必要としている解決すべき課題の洗い出しを社協、施設、民生委員それぞれの立場で行うこと。
- ・ 社協の大事な役割は社会資源とつなぐ、連携する、協働する力を創出すること。
- ・ 社会資源の創出に必要な 4 つの視点
 - ① 支援は本人の生活の場で展開される
 - ② 生活のしづらさに視点を寄せる
 - ③ 予防的、積極的なアプローチ
 - ④ ネットワーク、連携、協働

また、収束期を見据えた各社協の課題、新たな支援展開をいかにつくるか、生活支援相談員に対するケア等をテーマに情報交換を行いました。

花巻市の災害公営住宅 3 月に完成～入居者顔合わせ会開催～

平成 30 年 12 月 17 日（月）、花巻市のマルカンビル大食堂で、災害公営住宅『シティコート花巻中央』入居者交流会“マルカン de カフェ”が開催され、入居内定者 12 名と地元の上町町内会・仲町町内会から 13 名、合わせて 25 名が参加しました。



シティコート花巻中央は、上町棟（4 階建て）と仲町棟（3 階建て）の 2 棟から成る全 30 戸の災害公営住宅で、平成 31 年 3 月中旬に完成予定、31 年 4 月以降に入居開始となります。

上町・仲町それぞれの町内会長の挨拶の後、マルカン名物のソフトクリームなどを味わいながら、1 時間半にわたり懇談しました。町内会からは季節ごとに行われるお祭りや町の紹介、入居内定者からは古里の話やお薦めの店などの質問があり、終始和やかな雰囲気でした。

参加者は「顔見知りになったので安心して生活できる」と話し、入居を心待ちにしていました。